



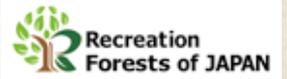
特集

新たな森と人のかかわり「Forest Style」の創造
～人生100年時代を森林空間と過ごす～

詳細については「日本美しの森 お薦め国有林」のウェブサイト
 (http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/
 katuyo/reku/rekumori/)をご覧ください。



にっぽん
 「日本美しの森 お薦め国有林」のご紹介



ニセコ・^{しんせんぬま}神仙沼自然休養林 (北海道岩内郡共和町、^{いわないぐんきょうわちょう あぶたぐんくちやんちょう}虻田郡倶知安町)

【概要】

ニセコ・神仙沼自然休養林は、北海道共和町と倶知安町にまたがり、ニセコ^{しやこたんおたる}積丹小樽海岸^{かいがふ}国定公園に指定されています。海拔 750m 以上の高原に位置し、神仙沼湖沼群 (大沼、長沼、大谷地、鏡沼) とニセコ山系の湖沼群があり、この中で最も美しいといわれているのが神仙沼です。神仙沼は、面積 1.19 ヘクタール、最大水深 2m、平均水深 1.3m で、分解されないまま大量の泥炭が蓄積され周囲よりも高くなったため、地下水ではなく雨水のみで維持されている学術的に大変珍しい湖沼です。

【見どころ】

毎年 6 月上旬に開催される「ワイスホルン、ニセコ・神仙沼自然休養林山開き」に合わせて、冬期通行止めだったアクセス道の道道 66 号線が通れるようになります。この時期を境に、白い花を咲かせるチングルマ、わたぼうしが綺麗なワタスゲ、色鮮やかなムラサキヤシオツツジ、黄色い花を咲かせるネムロコウホネ、ニッコウキスゲの名前でも知られるエゾゼンテイカなどが四季折々で様々な表情を見せてくれます。

また、沈むことがないといわれている浮島が、風に吹かれて自由気ままに鏡沼の水面上を漂っている光景を眺めれば見る人の心も軽くなりそうです。

【イベント】

毎年、紅葉が見頃の 10 月上旬に、地元 (共和町) の特産品の神仙熊笹もちや、らいでんスイカ、秋の味覚の飲食販売等が実施される秋の味覚まつり (共和町) が、神仙沼自然休養林休憩所 (レストハウス) 駐車場にて盛大に行われますので、是非、秋の味覚を堪能しにお越しください。

【アクセス】

- 公共交通機関の場合 (一部の路程に車を利用)
- ・札幌駅 (JR 函館本線: 約 3 時間) → ニセコ駅 (五色温泉バス: 約 1 時間) → 神仙沼
- ※五色温泉バスは、ハイシーズン (7 月及び 9 月～10 月の土日祝、8 月毎日) のみ運行
- ・札幌 (都市間バス「高速いわない号 (北海道中央バス)」: 約 2 時間 20 分)
- 共和 (車: 約 30 分) → 神仙沼
- 車の場合
- ・札幌自動車道 小樽 IC → 神仙沼 (約 120km、約 2 時間 20 分)

※新型コロナウイルス感染症対策の影響もございますので、施設の開園やイベント開催等の状況については、事前に HP 等で情報をご確認ください。

※情報サイト

- ・共和町 HP 神仙沼自然休養林
<https://town.kyowa.hokkaido.jp/kankou/spot/shinsennuma.html#65>
- ・倶知安町 HP
<https://www.town.kutchan.hokkaido.jp/tourism/midokoro/kagaminuma/>



神仙沼



神仙沼の植物 (上段・左から: チングルマ、ワタスゲ、下段・左から: ムラサキヤシオツツジ、ネムロコウホネ)



秋の味覚祭り (提供: 共和町役場)



9 2020 No.162

Contents

- 03 特集 新たな森と人のかかわり「Forest Style」の創造 ~人生100年時代を森林空間と過ごす~
- 07 TOPICS 01 林野庁公式Youtubeチャンネルを開設しました!
- 08 林木遺伝子銀行110番 宝珠のように松ぼっくりが鈴なりにつくクロマツ/初代歌川広重の「近江八景之内唐崎の夜雨」にも描かれたクロマツの子孫
- 10 林業成長産業化地域創出モデル事業⑱ 森林施業の効率化と渡島産木材のブランド化による川上・川下一体的な成長を目指して
- 12 国有林野事業の取組 平成30年台風21号等被害からの森林再生に向けて
- 16 TOPICS 02 農林水産省、子供向け夏のWeb講座「夏まふり2020」開催しました!
- 18 TOPICS 03 楽天市場にWOOD CHANGE 特集ページ開設!
- 19 みどりの女神が行く!

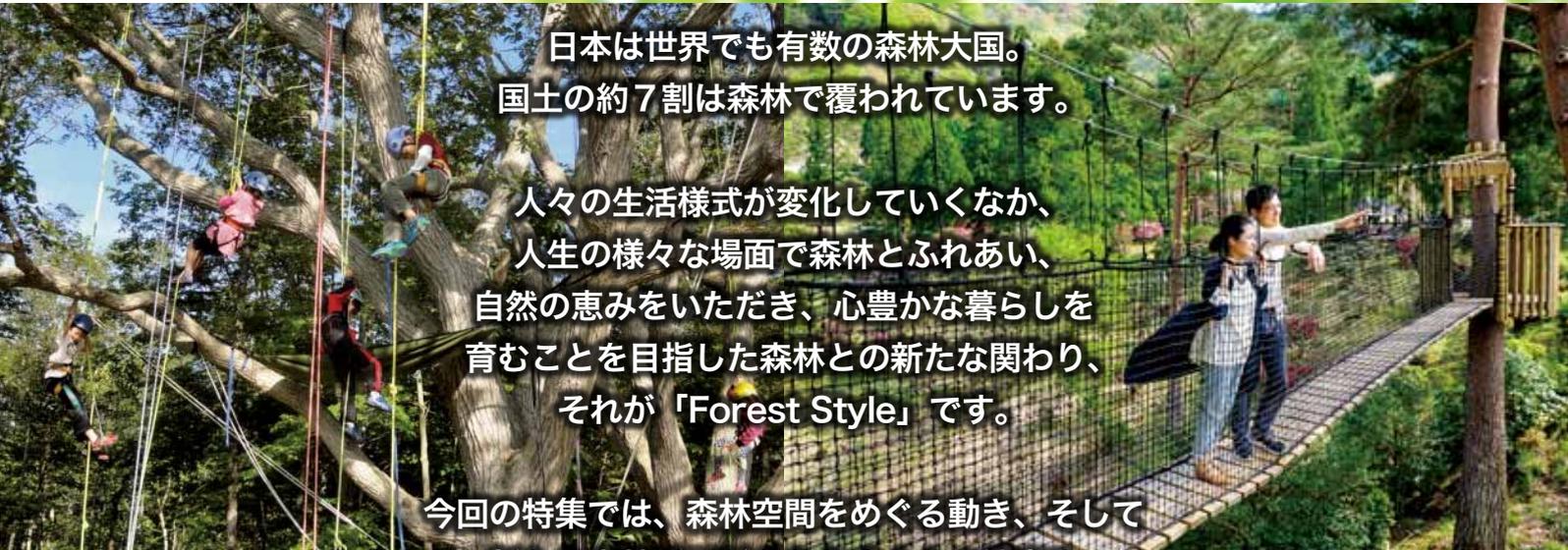
【表紙の写真】
 奈良県十津川村 (施設名:「空中の村」)



特集

新たな森と人のかかわり 「Forest Style」の創造

～人生 100 年時代を森林空間と過ごす～



日本は世界でも有数の森林大国。
国土の約7割は森林で覆われています。

人々の生活様式が変化していくなか、
人生の様々な場面で森林とふれあい、
自然の恵みをいただき、心豊かな暮らしを
育むことを目指した森林との新たな関わり、
それが「Forest Style」です。

今回の特集では、森林空間をめぐる動き、そして
新たな森林活用がもたらす人々の健康や
山村振興への可能性について紹介します。



これまでの森林空間利用

1980年代から全国各地で促進されてきた森林空間利用は、山岳・峡谷などの景勝地や高原リゾート・温泉地・別荘地などの周辺に、散策路・遊歩道や展望台・休憩施設などを整備したり、



(問) 1年に何回くらい山に遊びに行きますか。



(問) どんな目的で山にいきましたか。
[複数回答可] (N = 133)

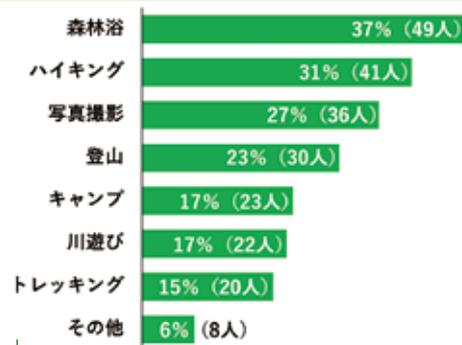


図1 (出典) 株式会社「山の日」にちなんだ登山に関する調査アンケート (平成28年7月調査)

アスレチックのある森林公園やキャンプ場を整備したりする取組が多くを占めてきました。これらの取組は、山村地域における新たな観光資源開発や雇用創出などの観点から公共施設としてのハード整備が中心で、ソフト整備は限られていました。そのため、一部の愛好者を除いて、多くの観光客・来訪者は、森林を風景として楽しむような通過型の訪問・滞在が中心で、森林空間が生み出す恵みを五感で十分に享受する機会は少ない状況でした。

民間のアンケート調査結果によると、1年間で1度も山に遊びに行かないと答えた人は6割を超えており、1年間に1回以上山に遊びに行く人については、森林浴やハイキングなど非日常を求めているという結果が出ています (図1)。

このように、これまでの森林空間利用は一部の関心層が個人又はグループで非日常を楽しむものが中心で山村地域での滞在は、短期間、単発的なものにとどまることから、山村地域への経済的な効果が限定的と考えられます。

日常生活での森林空間利用



近年、森林内での散策やウォーキング、ランニングや自転車走行、音楽鑑賞や芸術鑑賞など、日常生活の中で森

林空間を活用しようとする新たなニーズが高まっています (図2)。また、こうしたニーズは年齢層によって傾向が異なり、例えば散策やウォーキングは50歳代、60歳代のニーズが、ランニングや自転車走行は40歳代までのニーズが、保育・幼児教育は30歳代でのニーズが目立っています (図3)。

林野庁では、このようなニーズも踏まえ、人生100年時代のあらゆるス

テージにおいて、森林とのふれあいや森の恵みをいただきながら、健康的で文化的な、楽しく心豊かに暮らすことを目指すライフスタイルを「フォレスト・スタイル」として国民の皆様に提案しており、仕事・学業などの「ワーク」や、生活・余暇などの「ライフ」といった様々な場面で森林空間の活用を呼びかけています (図4)。

(問) 日常生活の中で、森林でどのようなことを行いたいですか (いくつでも)。

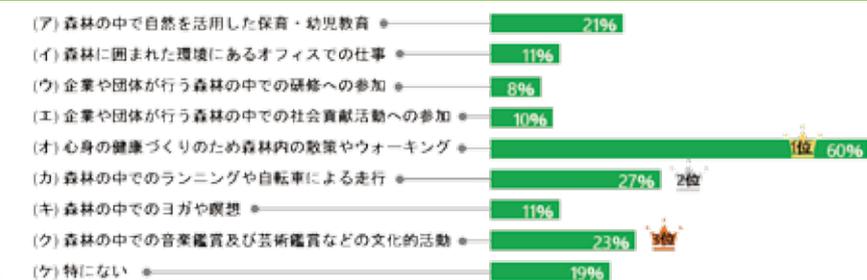


図2 (出典) 内閣府「森林と生活に関する世論調査」(令和元年10月調査)

年代別ニーズの割合

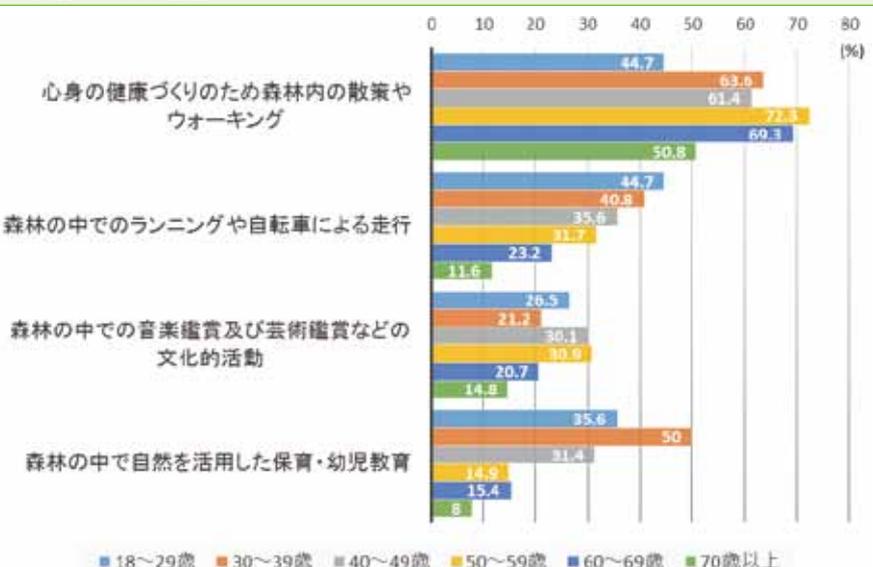


図3 (出典) 内閣府「森林と生活に関する世論調査」(令和元年10月調査)

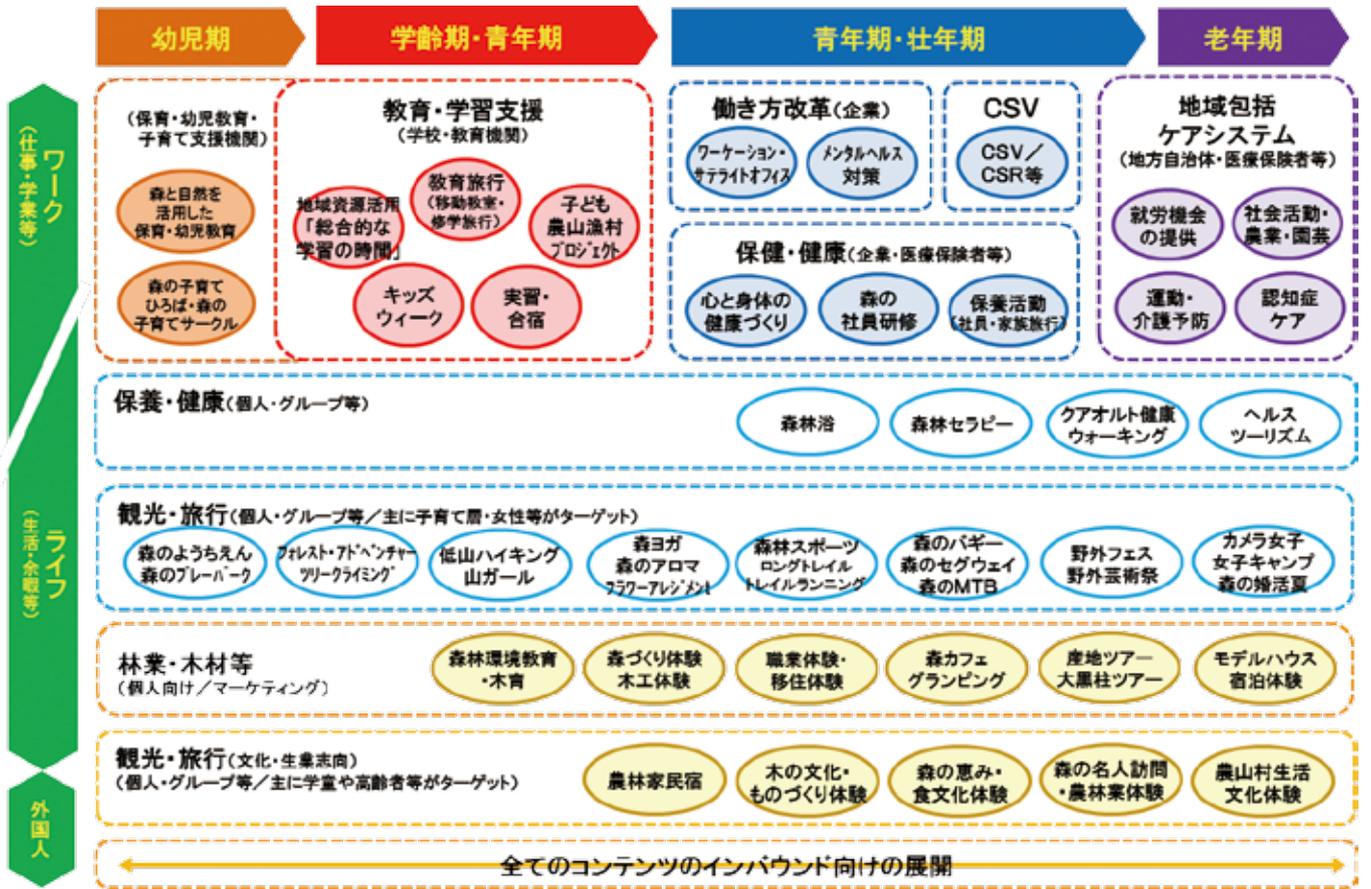


図4 様々なライフステージにおける森林との関わり

「ワーク」については、幼児期から青年期にかけて自然保育や森林環境教育の場として、青年期・壮年期にかけては働き方改革や社員研修の場としての利用が見られ始めています。老年期においては、地方自治体や医療保険者などによる介護予防や認知症ケアへの活用が期待されます。

「ライフ」については、青年期から老年期にかけて森林浴やウォーキングなどの保養・健康活動に利用されています。また、子育て層を中心にツリークライミングやハイキング、女性を中心に森ヨガやカメラ女子の活動の場として活用されています。近年は、農山村での民泊体験や文化体験が盛んになってきています。さらには、様々なコンテンツにおいて外国人向けの展開も期待されます。

このような利用は、①利用者層が全世代に渡ることで、②森林に無関心な層も利用者に含まれることで、③ガイドやトレーナーなどによる上質な体験プログラムを提供することで五感への恵みをより効果的に感じられること、④滞在期間が長期間又はリピート利用に及ぶこと、といった点で従来の森林空間利用とは異なります。

一方、森林空間の利用がヒトの心身に良い影響を与えること（例えば、リラックス効果など）は経験的に知られており、科学的にも研究が行われてきました。森林に無関心な層に日常生活で利用してもらうためには、五感への恵みを訴えるだけでなく、森林空間利用により、その個人・組織にとつてどのようなメリットがあるのかを定量的に説明できるようにすることが課題となっています（表1）。

健康経営評価指標	
個人への効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人の健康増進（健診受診率、健診結果、生活習慣、ストレス状況、罹患率等） ✓ 機会損失の削減（長期欠勤、就業制限等） ✓ 生産性の向上
組織への効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 組織の活性度（ワークエンゲージメント、従業員満足度、モチベーション、コミュニケーションの活性度等） ✓ 優秀な人材の維持・確保（新卒・中途採用結果、離職率等） ✓ ブランド効果（各種ランキング、口コミ等）

表1 企業の「健康経営評価指標」

また、山村地域がこのような多様なサービスを提供し続けるためには、医療・福祉分野、観光・旅行分野、教育・学習支援分野など様々な業界と連携・協働して取り組んでいく必要があります。

林野庁では、日常生活での森林空間利用を「フォレスト・スタイル」として提案しつつ、関係機関と連携しながら、この輪を広げているところです。

なぜ今なのか？



現在、我が国では、人口減少社会、人生 100 年時代、超スマート社会が同時に到来しています（図 5）。

人口減少社会は労働力の減少をもたらすことから、経済成長のためにはあらゆる場面で働き方改革の実現が不可欠となっています。人生 100 年時代は社会保障費の増大をもたらすことから、社会保障費の抑制のためには健康寿命の延伸が不可欠となっています。超スマート社会は変化の激しい社会でもあることから、児童・生徒には、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え判断して行動する力をつけることが求められています。今後は、新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式の実践も求められます。

また、従業員の健康増進の取組が、将来的に収益性等を高める投資であるとの考えの下、「健康経営」に関心の高い企業が増加しており、こうした変化・ニーズへの対応方法の一つとして森林空間を利用する新たな動きが国民や企業の間で広がっています（図 6）。

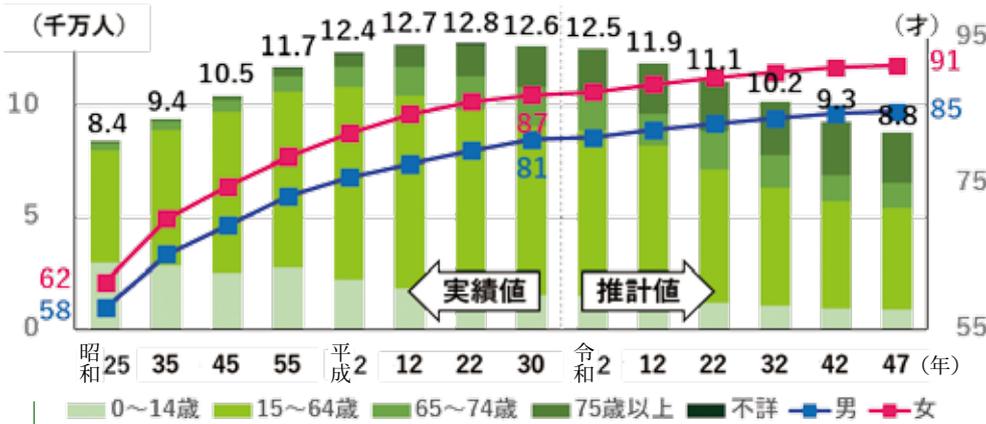
さらに、国民の価値観やライフスタイルが多様化している中で都会から山村へ移住する若者が見られますが、移

住者へのアンケート調査結果によれば、山村を含む過疎市町村には「自分らしく暮らし、働く場」としての価値があることが明らかにされています。都会から山村へ移住する若者を中心とした「外からの視点」と、山村の高齢者を中心とした「内からの視点」が出会ったことで、日常生活を資源とした新たな山

村の価値創造に繋がり、双方の生きがいの醸成にも寄与しているとの報告もあります。「外からの視点」は都会から山村への移住者に限定されるものではなく、山村や山村住民との多様な関わりを持つ者も含まれ、「関係人口」として注目されています。このように、個人の多様性を認め合っていくとする

現代社会において、自分らしく健康で生きていける新しいライフスタイルを実現できる場が山村にはあります。このような社会課題の解決が急務となっている中で、その解決方策の一つとして森林空間利用が今、注目されているのです。

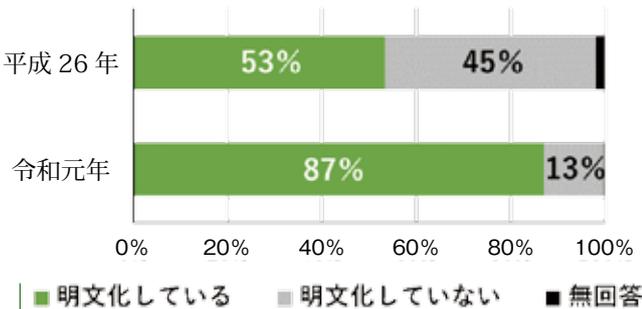
人口・平均寿命の推移と将来推計



注) 平成 30 年の平均寿命のグラフ上の数値は平成 29 年の実績値である。
資料) 内閣府「高齢社会白書」(令和元年版)より作成

図 5

会社方針への「健康経営」の明文化



資料) 経済産業省「健康経営度調査」より作成

図 6

Forest Style ネットワークのご案内

新たな森林空間の活用について関心が高まる中、林野庁は令和元年 11 月に「Forest Style ネットワーク」を立ち上げました。このネットワークは、林野庁森林利用課に事務局をおき、森林活動に関心のある民間企業や団体などで構成され、異業種間での交流や情報共有を図ることを目的としています。参加者数は、令和 2 年 8 月末現在 210 団体となっており、募集は通年で行っています。

参加方法など、詳しくは林野庁ホームページに掲載しています。右の QR コードまたは以下の URL をご参照ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou.html>



林野庁公式 Youtubeチャンネルを開設しました！

7月24日より、農林水産省公式 Youtubeチャンネル「BUZZ MAFF」において、林野庁公式「くめ頑張るチャンネル」を開設しました！

このチャンネルでは、林野庁 広報の「くめ」と「かわい」の二人が皆さまに森林・林業・木材産業の魅力をお伝えしていきます。

第一弾のテーマは、「木を素材としたコロナ対策グッズ！」。木の素材を生かしたマスクや、スイッチなどを直接触れることなく使える非接触棒など、身の回りにあったら便利なアイテムをご紹介します。

8月18日に公開した第二弾では、「くめ」と「かわい」のテレワークの様子を通して、木製の食器やシカ革のアクセサリーなど、普段の生活に密着したアイテムをご紹介します。

今後も森林・林業・木材産業に関するテーマで様々な動画を配信していきますので、ぜひチェックしてみてくださいね。



▲木を素材としたコロナ対策グッズ！くめ頑張る
<https://www.youtube.com/watch?v=qjzbn6rtQwc>



▲林産物使ってる？くめ頑張る
<https://www.youtube.com/watch?v=9IBALcKw0RE&t=1s>



BUZZ MAFFとは？

農林水産省職員自らが省公式Youtubeチャンネルで YouTuberとなるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです。



<https://www.youtube.com/channel/Uck2ryX95GgVFSTcVCH2HS2g>



宝珠のように松ぼっくりが鈴なりにつくクロマツ

林 木育種センターの「林木遺伝子銀行110番」の里帰りシリーズ第5弾です。一つ目は、岩手県陸前高田市の華蔵寺にあった「華蔵寺の宝珠マツ」です。この木は、通常のクロマツと異なり、新梢の基部に雌花が雄花のように集まって咲きます。そのため、球果が鈴なりに数十個ひとかたまりにつく様子が(写真1)、仏様の持ち物である宝珠を連想させることからこの名前と呼ばれ、国指定天然記念物に指定されました。大正15年頃に植栽された原木は、樹高19mにまで成長していましたが、平成29年に枯死したことから、東北育種場が保存していたクローン個体から平成30年につぎ木に用いる枝を採取し(写真2)、つぎ木増殖により後継樹を育成しました(写真3)。育成にあたっては植樹の際に根を傷めないように、そのまま植え付けられる生分解性のポットを使用しました。令和2年6月25日、華蔵寺において里帰りが行われ、地域の関係者の挨拶の後、原木があった場所への植樹が行われました(写真4、5)。華蔵寺の畑山住職は、「まずは元気に育ってほしい」と今後の成長に期待していました。「華蔵寺の宝珠マツ」が、地域のシンボルとして元の姿へと順調に成長することをわれわれも願ってやみません。

(林木育種センター東北育種場・井上 晃)



1 宝珠のような鈴なりの雌花、2 親木から採取した穂木、3 つぎ木苗、4 華蔵寺の住職らによる植樹、5 元の場所に植栽された宝珠マツ



林木遺伝子銀行110番

— 貴重な樹木の苗木の里帰り —

初代歌川広重の「近江八景之内唐崎の夜雨」にも描かれたクロマツの子孫

つ目は、滋賀県大津市の唐崎神社内にある「唐崎霊松」^{からさきれいまつ}です。初代霊松は633年、二代目は1591年に植樹され、いずれも枯れました。琵琶湖のほとりに堂々と立っていた二代目霊松は、近江八景「唐崎の夜雨」^{やう}として様々な絵に描かれています。現在の霊松は、二代目の種から育てた苗が1887年に植えられた三代目ですが、平成29(2017)年頃から樹勢が急激に衰え、樹高10m・東西の枝張り25m・南北の枝張り27mの大木は半分の切断を余儀なくされました(写真1)。そこで、貴重な唐崎霊松の遺伝子を将来に残すため、平成30年6月に唐崎神社の本社である日吉大社から関西育種場へ林木遺伝子銀行110番の利用申請がありました。三代目霊松から枝を採り、つぎ木増殖^{ひよしたいしや}を行い育成した苗木は(写真2)、神職らによって本年2月に再びその近くに植栽され(写真3)、現在順調に生育しています(写真4)。関西育種場は、林木遺伝子銀行110番により令和元年度末までに95件の里帰りを行っています。

(林木育種センター関西育種場・山本 あゆみ)



1 三代目「唐崎霊松」、2 里帰りしたつぎ木苗木、3 神職らによる植樹、4 後継樹の現況

「林木遺伝子銀行110番」の利用については、
森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターホームページの「遺伝資源の収集・保存・配布」
URL <https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/iden/index.html> をご覧いただくか、
遺伝資源収集係(林木育種センター Tel.0294-39-7000)にお問合せ下さい。



森林施業の効率化と渡島産木材のブランド化による 川上・川下一体的な成長を目指して

北海道渡島地域における林業・木材産業の成長産業化の実現



図1 H30 北海道渡島地域ポイント概略図

1 渡島地域の現況

渡島地域は北海道の南西部「渡島半島」に位置し、11市町（函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町）で構成されています。風光明媚な大沼公園や駒ヶ岳などの自然、五稜郭や松前城などの文化、函館山からの夜景など、国内外から多くの観光客が訪れる魅力ある地域です。

当地域の面積は39万haで、うち森林面積は31万haと約8割を占めており、北海道内でも林野率の高い地域となっています。

近年、道南地域特有の「道南スギ」をはじめ、トドマツなどの人工林資源の大半が利用期となっており、平成22年度以降は素材生産量が増加傾向となっています。

その一方で、北海道内の他地域に比べ高性能林業機械の導入が進んでいないことや地形が急峻であることなどから、間伐材の搬出や林地未利用材の利用が低位な状況にあります。このことから、工場側のニーズに対応した原木供給や生産コストの低減、間伐材等の利

用率の向上を進め、素材生産業者の利益率を向上させていく取組が必要となりました。

2 渡島地域の成長産業化の実現

このような現状を踏まえ、渡島地域では、平成30年度から林業成長産業化地域創出モデル事業の取組を開始し、「森林施業の集約化・低コスト化」と「渡島産木材のブランド化」を柱に位置づけ、かつ、相互に連携しながら、取組を進めています（図1）。

3 これまでと今後の取組

① 森林施業の集約化・低コスト化の推進と担い手の育成・確保

(1) 高性能林業機械の導入（写真1）
間伐材の搬出や林地未利用材の利用に向けた低コスト化を図るため、平成30年度にハーベスタ、令和元年度にグラップルなどの林業機械の導入を進めています。



写真1 高性能林業機械（ハーベスタ）



写真2 はこだて森林認証推進協議会



写真3 大断面プレカット加工機



写真4 道南スギなど森林認証材PRパンフレット



写真5 WOODコレクション(モクコレ)への出展

(2) 地域が一体となった森林認証の取得(写真1・2)

平成30年に道南地域の森林に魅力的な付加価値を持たせた地域材のブランド化を目指し、市町、森林組合及び林業事業者が一体となった「はこだて森林認証推進協議会」を設立し、森林認証を取得しました。取得後も協議会が中心となり、普及に向けた勉強会や首都圏での展示会に出展するなど森林認証材の販路拡大のための取組が進められています。

② 効率的・安定的な供給体制の構築と渡島産木材のブランド化

(1) 加工施設等の整備(写真1・3)

地域材を地域内で効率的に加工していくため、今後増大が見込まれる大径材への対応を見据え、大断面プレカット加工機など、大径木加工施設の整備が進められました。

(2) 森林認証材PRパンフレット・WEBサイトの作製(写真1・4)

渡島地域の川上から川下における各分野の方々の林業・木材産業や道南スギへの思いを詰め込んだパ

ンフレットやWEBサイトを作成しました。

地域材の情報発信を行うとともに、苗木生産から地域材の普及までの川上から川下で働く人にスポットを当てた内容としており、道南スギなど森林認証材の認知度向上や担い手確保への一翼を担うものと考えています。

WEBアドレス：<http://dounan-sugi.com/>



(3) 大消費地(首都圏)をターゲットとした展示会の出展(写真1・5)

道南スギなど森林認証製品のPR活動として、首都圏で開催した「WOODコレクション」への出展を行いました。

道南スギの地元での知名度は高まってきましたが、道外では「北海道のトドマツ」と比べると知名度が低いなどの課題があることから、今後も道外向け情報発信の強化を図っていきます。

③ 今後の取組

(1) 川上から川下を一体的に成長するためのICT等先端技術の導入

川上から川下のそれぞれの体制・取組を強化するとともに、それらを一体的・効率的に循環させるためのICT等の先端技術の導入に向けた取組を推進し、流通体制の効率化と地域材の付加価値向上を目指します。

4 おわりに

本事業を通して、地域の林業関係者と連携し、施業の集約化・低コスト化を図るとともに、地域材の活用促進を図るため、道南スギのブランド化や森林認証材の販路拡大の取組を進めてきました。

本地域は北海道の他地域と比べ、機械化の遅れや地形が急峻であるなどの課題がありますが、観光地域の様々な魅力ある地域資源を活かし、異業種連携を図りながら、地域の森林・林業・木材産業が一体的に成長することで、森林資源の循環利用を通じた地域の魅力の増進と地域活性化に取り組んでいきたいと考えています。

平成30年台風21号等被害からの森林再生に向けて

貴船山・鞍馬山国有林での取組



▲貴船茶屋（出典元：貴船茶屋 HP）



貴船神社▶

貴船山・鞍馬山国有林の特徴と被害の概要

貴船地区は京都市街地の北方に位置し、その奥座敷として知られています。その貴船地区の中央部には縁結びで有名な貴船神社が鎮座し、貴船川沿いの細長い渓谷には料理旅館等が建ち並び人気の観光スポットとなっています。

貴船山・鞍馬山国有林（面積229ha）は、その貴船川兩岸に位置しますが、古くからスギ等の植栽が行われ、林齢70年以上の人工林が過半を占めて、荘厳な雰囲気を出しています。

平成30年9月4日、徳島県に上陸した台風第21号はそのまま北上し、大阪・京都方面を襲い、暴風による大規模な森林被害を発生させました。貴船山・鞍馬山国有林では53箇所、約13haに及び森林被害だけでなく、大径の風倒木が落下して2軒の家屋を直撃し全壊させるとともに、風倒木による電線の切

管内概要

京都大阪森林管理事務所は、京都市に所在し、京都府・大阪府に所在する国有林 5,652ha 及び官行造林地* 2,058ha を管理しています。管内の国有林率は、約 1.4% と国有林が少ない地域ですが、管理に当たっては、木材生産・国土保全に加え、景観保全、森林レクリエーション利用等の多様な森林整備への期待が大きい地域です。

京都市内にある東山風景林、嵐山風景林は、「清水の舞台」、「嵐山渡月橋」といった「古都京都」を代表する景観の一部となっています。同市内の大悲山国有林にある「花脊の三本杉」は、日本一高い木（高さ62.3m）であり、「森の巨人たち百選」に選ばれています。また、大阪府内の箕面山

国有林は、「明治の森箕面自然休養林」として、関西の人々の憩いの森として親しまれています。

*官行造林地とは…「公有林野等官行造林法」に基づき、国が地方公共団体等の所有する土地で造成・整備し、伐採時にその収益を分収する人工林のこと。



所の基礎データ

所在地	京都市上京区西洞院通り下長者町下ル丁子風呂町 102		
区域面積	651,733ha	うち森林面積	399,520ha
国有林野面積	5,652ha (国有林率 1.4%)		
管轄区の関係市町村	13市5町1村（うち3市1町1村（）は官行造林のみ） 京都府：京都市、宇治市、綾部市、宮津市、舞鶴市、京丹後市、木津川市、 （亀岡市）、（福知山市）、（南丹市）、井手町、京丹波町、伊根町、（与謝野町） 大阪府：高槻市、阪南市、箕面市、岬町、（千早赤阪村）		

近畿中国森林管理局

京都大阪森林管理事務所

断や公道等への倒木などにより、公共インフラへも大きな影響をもたらしました。

被災直後の対応と 森林再生全体計画の策定

近畿中国森林管理局では、被災直後から家屋を直撃した風倒木の撤去を進めるとともに、関係機関と連携しながら、公道等に影響を与えている被害木・危険木の伐採・整理に当たりました。

翌令和元年度には、被害森林の本格復旧に向け、地域住民の安全・安心の確保、観光・景観への配慮など多角的な視点から森林再生のあり方を検討するため、有識者からなる検討委員会を立ち上げて議論を重ね、その成果とし



写真1 風倒木の状況

て、令和2年3月に「森林再生全体計画」を策定しました。

森林再生全体計画の概要

森林再生全体計画の策定に当たっては、①森林づくりの方針の全体像を示すためのゾーニング、②被害箇所における属地的な風倒木の処理方法等、③被害地での森林再生（広葉樹林化等）に向けた施策のあり方について、検討を進めました。

(1) 森林づくりの方針の 全体像を示すためのゾーニング

被害地の地形・地質、家屋や府道を含む保全対象との位置関係等を考慮し、



写真2 風倒木の状況

様々なリスク要因からの危険度を踏まえ、次の3つにゾーニングしています。

○**保全ゾーン**：保全対象に面する箇所又は特に被災リスクが高い箇所ので、積極的に治山技術も活用して森林再生を行うエリア

○**森林育成ゾーン**：尾根から中腹で、間伐などにより適切な人工林管理を行いつつ、最終的に針広混交林へ誘導するエリア

○**複合ゾーン**：保全ゾーンと森林育成ゾーンの間や沢沿いなどに位置し、斜面の危険度を踏まえ、それぞれの林況に応じ森林整備や治山技術を活用するエリア

(2) 被害箇所における 属地的な風倒木の処理方法等

被害箇所毎に「風倒木の被害形態」「地質・地形及び立地」「保全対象への影響度（遠近）」の3つの因子と風致景観を考慮して、森林再生の優先度を判定するとともに、風倒木の処理方法、森林整備及び治山施設の整備について対応方針を示しています。

特に優先度が高いと判断した4箇所（上記ゾーン区分図参照）については具体的な森林再生の方法を策定し、その一部については本格復旧に向け作業を

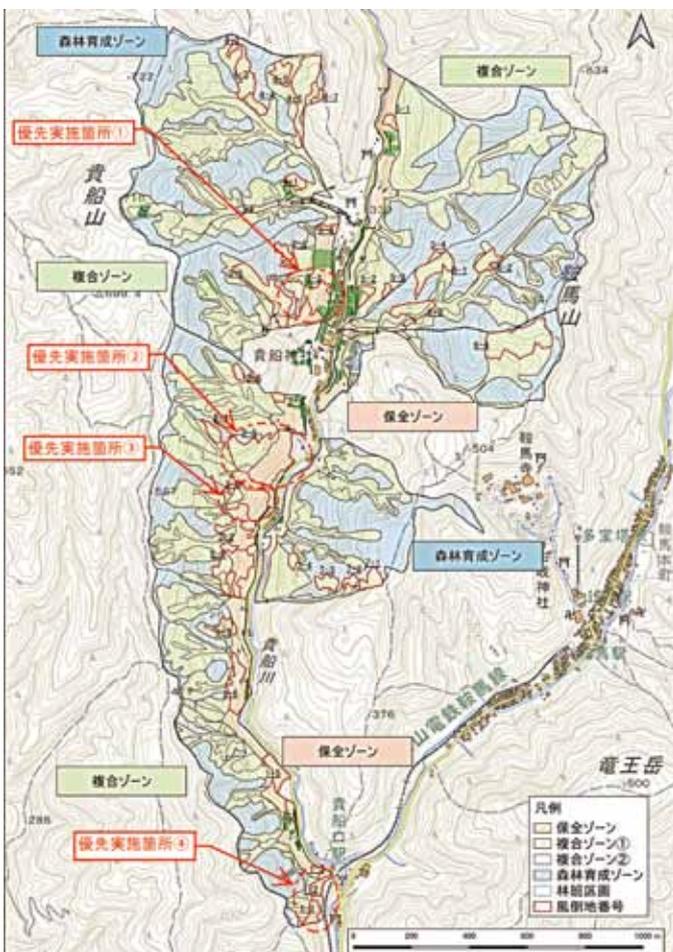


図1 ゾーン区分図

進めているところです（詳細は「事業の進捗状況」に記述）

③被害地での森林再生

（広葉樹林化等）に向けた

施業のあり方

①植栽樹種の選定

風倒木の処理後は、広葉樹植栽による植生の回復を基本とし、当地域の自然植生に合っている樹種、当該地域の地質・地形特性に適応する樹種、根系の発達が可能である樹種、当地域の景観に合う又は向上が期待できる樹種及び苗木調達が容易な樹種を選定しています。

②広葉樹林・

針広混交林への誘導方法

風倒木処理により無立木の状態となった箇所については、原則、①の選定樹種から植栽するとともに、搬出困難で下流部に保全対象がない箇所については、天然更新の活用も検討することとしています。

被害を受けていない人工林については、段階的に間伐を行い、針広混交林に誘導します。

③家屋に隣接する森林の取扱い

家屋の上部に位置する森林については、風倒木等が落下し家屋に被害を与えることのないよう、安全管理に努めることとし、斜面の移動体（崩壊の危険性がある箇所。以下同じ。）の有無等により伐採可否を判断するとともに、斜面の移動体を抑えている「要となる立木」を把握した場合は、該当木は基本的に伐採を控えます。斜面の移動体がある箇所では危険木全てを伐採する場合は、移動体の脚部を抑える治山対策を実施します。

事業の進捗状況



特に優先度の高い4箇所のうち3箇所については、既に森林再生に向けて事業に着手しており、その内容と進捗状況は以下のとおりです。

①優先実施箇所①

風倒木についてはヘリコプターにより搬出済（令和元年12月）です。風倒木地等からの崩壊・落石による家屋への直接被害を防止するため、高強度ネット工による崩壊対策に加えて、上部からの落石防止対策として落石防護柵を設置します。高強度ネット工の北側及

び上部については、植栽により森林の再生を行う予定です。

②優先実施箇所②

風倒木についてはヘリコプター及びクレーンにより搬出済（令和2年3月）です。また、落石が府道等へ直接被害を及ぼさないよう、落石防護柵の設置も完了（令和元年12月）しています。風倒木処理後は、林地の状況に応じ表土の流出防止や斜面の安定を図りながら、防鹿柵を設置し、広葉樹等を植栽する予定です。さらに状況に応じて山脚部に山腹工（土留工・柵工）などを行います。



写真③ ヘリコプターで搬出するため風倒木を玉伐り

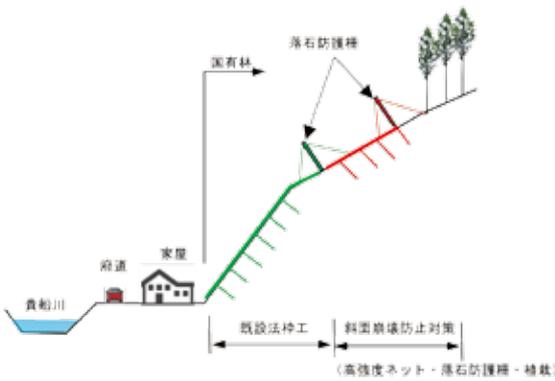


図2 優先実施箇所①

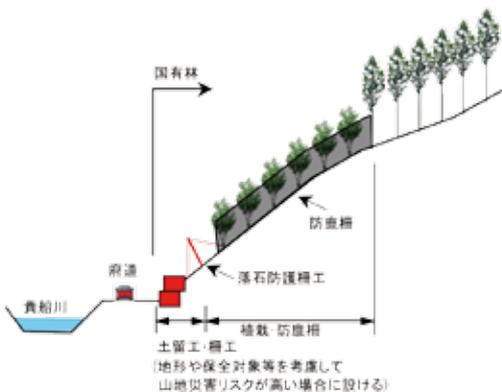


図3 優先実施箇所②

(3) 優先実施箇所③

風倒木についてはヘリコプターにより大部分を搬出済（令和2年6月）ですが、残りについてはモノレールで搬出します。風倒木処理後は、優先実施箇所①と同様、家屋等を保護する観点から、高強度ネット工による崩壊対策に加えて、上部からの崩壊・落石対策として崩壊土砂防護柵を設置します。このほか、高強度ネット工の上部については、表土の流出防止を図り、そこへ植栽を行う予定です。

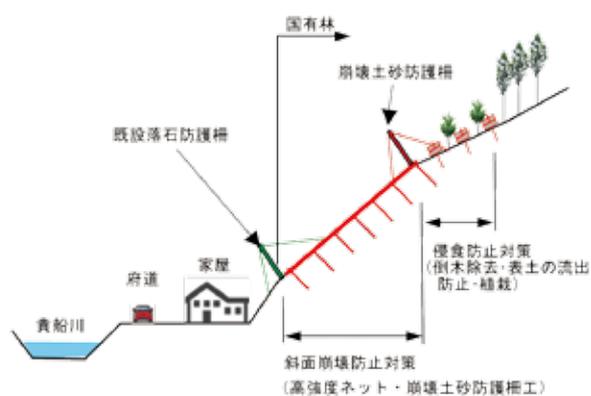


図4 優先実施箇所③

森林再生に向けて



貴船地区の住民の代表者の方々は被災前から定期的（年1回）に鞍馬山・鞍馬山国有林の施業や管理について懇談する場を設けてきました。今回の森林再生全体計画の策定に当たっても事前にご意見をいただくとともに、令和2年6月には住民の皆様を対象に森林再生全体計画の説明会を開催したところです。

貴船山・鞍馬山国有林の森林再生は、一緒に就いたばかりですが、これまでで

上に地域住民をはじめとした関係者のご理解とご協力が不可欠と考えており、引き続き意見交換等を行いながら一日も早い森林再生に向けて事業に取り組んでまいります。



写真5

風倒木をヘリコプターで搬出



写真6 住民説明会の様子



写真4 落石防護柵設置、風倒木処理後

農林水産省、子供向け夏のWeb講座「夏まふり 2020」を開催しました！

七月三十一日ー八月三十一日開催

夏まふり



農林水産省の夏

自由研究のタネがいっぱい

これまで誰も経験したことのない脅威の「新型コロナウイルス感染症」により、人と人の接触を避けた新しい生活様式が求められるようになりました。

農林水産省は、新型コロナウイルス感染拡大により、今年の「こども霞が関見学デー」が中止になったため、農林水産省独自のWeb企画「夏まふり2020」を、2020年7月31日から8月31日の1ヶ月間開催しました。

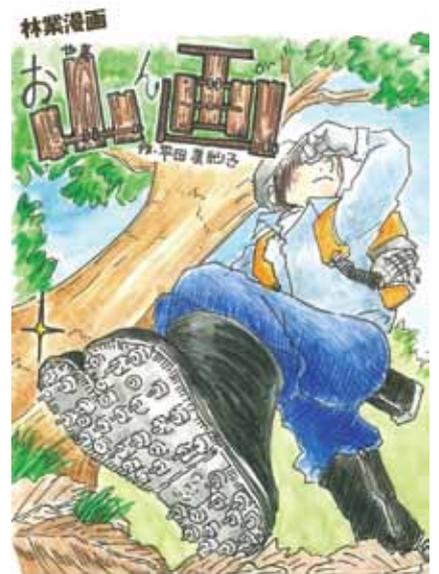
「夏まふり2020」では、子供達がクイズやゲームなどで楽しみながら食や農林水産業について学んだり、夏休みの自由研究の題材として使ったりできる22個のコンテンツが用意されました。林野庁からも、私たちの身近に存在する森林やそこで生活している動物たち、木の利用について学べる3つのコンテンツを公開しましたので本誌で紹介いたします。

1 リン子と森林の世界を見てみよう！

林業のこと、木のこと。どれくらい知ってるかな？ここでは、そんな山の魅力がいっぱいつまった漫画を紹介しました。



発行 林野図書資料館



山のこと 知らない人でも 得意うと楽しむ
山のこと 知ってる人は ぐさりと笑える

なお、林野図書資料館 (URL: <https://www.rinya.naff.go.jp/j/tosyo/event.html#manga>) では、今回紹介された作品を含めた、林業漫画「お山ん画」、日本人と木の文化を楽しくご紹介する樹木漫画「リン子の絵日記」、人と木をつなぐ仕事を紹介する職業漫画「人to木」、最先端の林業現場を紹介する現場漫画「林業よススメー」の4シリーズを引き続き公開しております。



2 木をつかおう 木を使うのは良いこと？

みんなの身近にあるたくさんの木、実は日本の面積の約7割が木でおおわれています。

たくさんある日本の木を使うことが、環境にやさしいってホントなのか、その答えをここで探してみようをテーマに、ホームページや動画を紹介しました。

ホームページ

木はぎって使う方が、環境にやさしい？
キノハイ・キノサクと考えてみよう。



全国木材協同組合連合会
(URL : <https://love.kinohei.jp/kids/index.php>)

木を使って何が出来るの？楽しく学ぶ木づかい



特定非営利活動法人 活木活木森ネットワーク
(URL : <http://www.kidukai.com/learn/>)

動画

木でできたクマの人形「きこりぐま」が作る未来都市から、木を使う大切さについて考える、「木でつくろう」編などを紹介しました。



3 動く紙芝居の中で動物たちと一緒に森を冒険しよう！

林野庁職員が作成した紙芝居「シンタローのぼうけん」を動画で公開（全3話）しました。

主人公シンタローくんが、いろいろな場所で行くいろいろな動物たちと触れあいながら冒険する物語

です。各話ごとに森林についての解説もついており、細かく書き込まれた紙芝居の見どころを再確認できるようにしております。



「夏まふり2020」の開催期間は終了しておりますが、農林水産省（URL : <https://www.maff.go.jp/j/kids/natsumafuri2020/index.html>）で引き続き公開しております。

今年も、新型コロナウイルス感染拡大で「こども霞が関見学デー」が中止となつてしまいましたが、来年は通常どおり開催され、皆様とお目にかかれる日を楽しみにしております。



この他にも、近畿中国森林管理局で公開されている紙芝居もぜひご覧ください。

森と水のつながりを学ぶ紙芝居『雨水のぼうけん』を公開中

近畿中国森林管理局^{みの}箕面森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育の教材等として教育関係者や一般の方々に広く利用いただけるよう、紙芝居『雨水のぼうけん』デジタル版を当センターホームページ上で公開しています。

この紙芝居は、当センターの森林環境教育担当職員（平成30年度採用）が、持ち前のイラスト作画技能を活かして創作した全編オリジナル作品です。

本編は、森と水の関係を物語風に描いた全15枚からなり、2017年公示の新学習指導要領（小学校第4学年）に加えられた項目「(3) 雨水の行方と地面の様子」の補助教材等としての利用を想定していますが、親しみやすい絵と易しい言葉使いで仕上がっていますので、小学校低学年や就学前のお子さんへのご家庭での読み聞かせなどにも利用いただけるものと期待しています。ダウンロードはこちら



創作中の作者：矢放七海

楽天市場に WOOD CHANGE 特集ページ開設！

林野庁では、ウッド・チェンジにつながる木材利用への理解醸成に資する取組を支援しています。楽天株式会社では、今年度、この補助事業を活用し、デジタル技術を活用した情報発信等に取り組まれています。

8月末から、楽天株式会社が運営するインターネット・ショッピングモール「楽天市場」に、特集ページ「WOOD CHANGE 木に変えて、変わったのは暮らしとワタシ。」が開設されています。

国産木材を使用した木製品（インテリア、雑貨、キッチン用品、おもちゃ、DIY（木材）等）をまとめて紹介しているほか、WOOD CHANGE コンセプト動画や、木にまつわる様々なコラムを掲載しています。

コラムの第一弾は『木育』。室内にいながらにして森あそびを体験できる場所として評判を呼び、近隣だけでなく都外からも利用者が訪れる「屋内の森あそび体験『創・造・冒・険』」（東京都立川市）より、「木と触れ合うことで育つ子どもの創造性とは」をテーマに、森を再現したフロアづくりや徹底した木へのこだわり、試行錯誤と遊びの価値などについて紹介しています。



今後、順次コンテンツを追加、更新しますので、おたのしみに！

楽天市場の特集ページ『WOOD CHANGE 木に変えて、変わったのは暮らしとワタシ。』は、以下のURLからご覧になれます。

<https://event.rakuten.co.jp/area/japan/woodchange/>





▲“里山 BONSAI”が出来ました。かわいい！

みどりの 女神が行く！

ミス日本みどりの女神
いどがわ ももか
井戸川 百花



「里山 BONSAI」

里山保全の大切さに触れた

7月9日、2016みどりの女神の飯塚帆南さんと「里山 BONSAI」作りを体験して参りました。ナンテンの苗木のおしゃれな盆栽に仕上がりました。

「里山 BONSAI」とは、熱海の森で育てた苗木で全国何処にいても自ら盆栽作りが出来るといふもので、都市生活にも小さな里山を再現し身近に感じてもらおうというURBAN SEED BANK様の取り組みです。勿論、自分好みに剪定仕立てすることも出来ます。

里山 BONSAIは、熱海の森の種子を育てて作られていると知り、わくわくしながら熱海の森の現状を視察してまいりました。

そこは人の手がほとんど加えられておらず、山道の歩みにくさと倒木だらけに驚きながら慎重に分け入っていきましました。鳥のさえずりが全く聞こえず、まるで生を感じない山のような感覚に襲われ、怖ささえ覚えました。聞けば熱海は林業が衰退して久しいそうです。荒れた里山を放置しておくと、土の中に眠る在来種の種も芽吹かないほど暗い里山へと化してしまつ現状に衝撃を受けました。

そして更に登っていった先には木を伐採し、日差しが届く明るい空間があ

り、先程とは打って変わって苗木が元気に育っていました。里山 BONSAIにはその苗木が使われているのです。そしてそこで採取された苗木は神奈川県進和学園（障害者支援施設）の方々によって、丹精込めて育てられています。ビニールハウスの中で沢山の種類の苗木が健康に育っていました。

このように里山を保全しようと行動を起こすことで、熱海の森を支えることに繋がりが、都会で緑を楽しむ方法を生み出し、障害を持つ方々への雇用も生まれます。積極的に森林、里山を再生させようとする団体が増え、日本のどこにおいても健康な緑が感じられる社会になればと思いました。

市全体が協力して山の健康を守る。

「三重県伊賀市未来の山づくり協議会設立総会」に出席

また「三重県伊賀市未来の山づくり協議会設立総会」に出席して参りました。

多くの山では保全しようと手を挙げる人が少ないという問題があります。しかし三重県伊賀市では森林組合や自治体が新しい山づくりの実現の為に手を取り合って協力されています。伊賀市の特質を活かした産業や長期的な視点での山づくりを具体化し、更には市民のために

山の恵みを感じられる環境づくりを目指すことや、人材育成にも可能性を上げようとされていきました。地域ならではの近い距離感や良い山を作り上げようと市全体が一丸となって団結している姿に心を動かされました。一人一人が現状を理解し、全員が連携して協力しながら解決策を編み出し行動を起こすことが今の日本の山を健康に生き返らせる方法なのではないかと感じました。



▲フェイスシールドで感染症予防策は万全！



▲明るくなった森は、とても気持ち良かったです

きのこので

きのこ料理のある

おいしい食卓には

幸福な笑顔が集まります。

おもてなし



10月15日はきのこの日

林野庁

日本特用林産振興会

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



本誌に使われている紙は、
日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索

